

木もれ日 通信

Komorebi Tsushin

第70号

令和元年7月
つきだて花工房発
季刊誌

◎つきだて花工房は木もれ日のようなぬくもりと
やさしさを持ち続けるみなさまの公共施設を目指します。

遠い記憶の中でさえ
色あせることのない白の薫り

始めの頃は降ると肌寒く感じられた雨が、ある日を境に猛烈な湿気となつて全てを包み込む。時たま日が射せば蝉時雨は一気に盛り上がり、夏休みの近づいていることを知らせる。夏は子どもたちのための季節だ。

「ただいま！」声を張り上げるなりの板の間にランドセルを放り投げる。「行つてきます！」昔ながらの家のひんやりした空気を感ずる間も無く、母親の小言が追いつく前に再び外へはね出す。麦わら帽子の縁の先に夏が光る。

あの頃は退屈なんてしている暇はなかった。虫、蛇、カエル、魚、カニ、エビ。遊び友達に事欠くことはなかった。山、川、田んぼ、畑、学校、道端。ステージは日替わりだ。葉っぱ一枚がお面になり、笛になり、船になり、それだけで小一時間は飽きることがなかった。

現代は「もの」より「こと」だと言われる。あの頃は学校の行き帰りに出くわす些細な出来事がビッグニュースであり、それだけで一週間は楽しむことができた。その当時の僕たちは正に現代の最先端を行っていたわけだ。それが「もの」に対してどんだんと食欲になつていったのはいつからなのだろう。

少し離れたところ（田舎で言うところの「少し離れたところ」はその

通りに受け取ってはいけな）に、よく一緒に遊んでいた友達が住んでいた。冬はウサギ捕り、夏は魚やカニ捕り、探検、基地作り。あいつがいれば楽しさが尽きることはなかった。

あるとき、朝方に川に仕掛けた罫を見に行こうと、悪友を誘いに家に行った。「おーう」庭先でがなつてみたが、いつもなら飛び出してくるはずのあいつが出てこない。「おおーう」ぼつかりと口を開いたような玄関口に向かつてもういちど大声を張り上げてみた。「だれ？」高い声が答えた。「あ？ ひさしぶりだない」あいつのお姉ちゃんが笑顔で出てきたとたん、なぜか突然、心臓が高鳴った。以前は悪友の一人だったのに中学校に上がってから部活も忙しらしく、お姉ちゃんとはずっと顔を合せていなかった。何か言おうとしても言葉が声にならない。「あの子、今お遣いさ行つてるのよ」以前のままの屈託ない笑顔にまともに視線を合わせることができない。

「また来るっ！」たたきつけるように言つて踵を返し、夏の真ん中へ駆け出した。鼻孔をつく強い匂いのほうを見ると、ヤマユリの花が目に入った。何にも染まらないような白い花が目奥に焼き付いた。



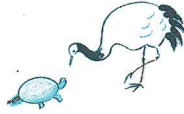
お客様ノオト

このノートはたくさんのお客様の笑顔と思い出が詰まった
つぎだて花工房の宝石箱です



◆ 嶋原様 (東京都)

息子さんご夫婦のご結婚祝いと、おばあちゃんの卒寿のお祝い
いのご利用でした。ゲームをしたりカラオケ
をしたりと、終始賑やかな雰囲気でお話しも
盛り上がりました。息子さんご夫婦、おばあ
ちゃんの末永いご幸福をお祈りいたします。



◆ 遠原婦人会様 (福島市)

里山コースでのご利用でした。当日雨だったこともあり散
策は出来ませんでしたが、お話をしたり、お風呂に入っ
たりと時間までゆっくり過ごされていました。今度はお
花を見ながらゆっくり散策もできるといいですね。



◆ ひいらぎ会様 (二本松市)

ボランティアのお仲間で、月に1回施設を訪問
してボランティア活動をしているとの事でした。
今回はゆっくり過ごしたいと旬月コースでのご
利用でした。当日は天気もよく、散策や買い物、お話しなど思い
思いにゆっくり過ごされていました。



◆ 福島いきもの探検隊様 (伊達市梁川町)

当日はあいにくの雨でしたが、ご夕食の後、ナイト
トラップ(夜間の昆虫採取)を行い花工房に生息
する蛾などの調査をされました。どんな蛾や昆虫
が集まってきたのでしょうか。皆様の調査への熱
意に圧倒される思いでした。



◆ 昭和53年度卒農業短大園芸科様 (伊達市月舘町)

久しぶりに顔を合わせる同級生同士、時が経
つのも忘れて、近況や懐かしい思い出話に花
を咲かせていらっしゃいました。二次会では
カラオケもあり、さらに盛り上がりまして
またお元気で同級会ができるといいですね。



◆ 澁谷家いとこ会様 (伊達郡川俣町)

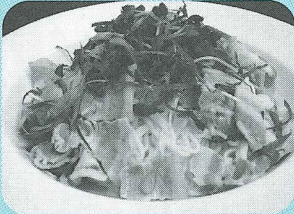
久々に会うという事もありお話が尽きるこ
とがなく、余興・ゲーム・カラオケでさらに盛り
上がり、皆様の笑顔が絶えない元気いっば
いな会でした。いつまでもお元気でいとこ
会ができますように。



季節の一品

梅肉と豚しゃぶの サラダ素麺

暑い夏、食欲のない時に
いかがでしょうか。



- 材料（4人分）—
- 材料A
 素麺……………400g
 しゃぶしゃぶ用豚スライス肉300g
 貝割れ大根……………1パック
 茗荷……………3本
 大葉……………10枚
 万能葱……………1束
- 材料B（タレ）
 梅干し果肉（たたいておく）50g
 市販のめんつゆ……………100cc
 水（又はかつおだし）……………600cc
 すりしょうが……………大さじ一杯
 胡麻油……………適量

作り方

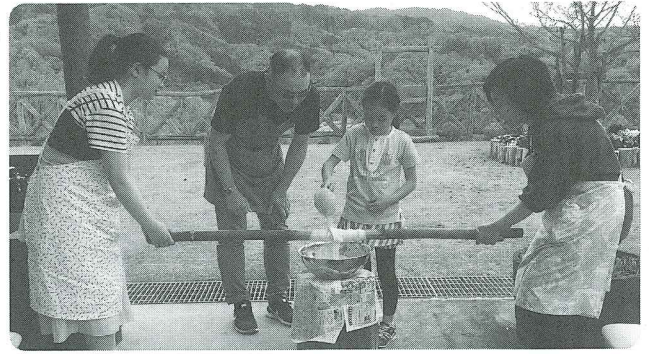
- ① 材料Aの豚肉は茹でて冷水に、貝割れ大根は半分の長さに、大葉・茗荷はせん切りに、万能ねぎは小口に切り、それぞれしっかりと水気を取って合わせておく。
 - ② 材料Bのそばつゆ・水又はかつおだしを合せ、梅干し、胡麻油、しょうがを混ぜる。
 - ③ 素麺を茹でて冷水で冷やし水気を取る。
 - ④ 素麺に材料Aの肉、野菜をのせ②のタレをかけて完成。
- ※ 素麺の代わりにうどんでも合います。

厨房より



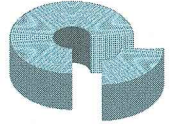
夏は何かとイベントの多い時期。花工房の夏のお膳は、暑い時期でも食が進むようなお料理を取りそろえ、スタミナアップ間違いなしです。ズッキーニや茄子・トマトなど新鮮な夏野菜をふんだんに使い、酸味の効いたマリネや出汁香る冷し鉢など、サッパリとした中にも味わい深い内容に仕上げました。

中でも伊達鶏のトマト煮は伊達鶏モモ肉のジューシーでプリっとした食感に、自家製トマトソースのコクと旨味が食欲をそそる一品です。夏本番、花工房の料理で元気と笑顔に!



◆稲野様（福島市）

令和元年を迎えた最初の日、お二人の娘さんと一緒にご家族4人で、午前にはピザ作り、午後にはバウムクーヘン作りを体験されました。バウムクーヘン作りはここ数年毎年ご参加いただき、「この時期になるとこの体験が楽しみなんです」とのこと。甘い香りに、他の来館者の皆さんも足を止めていました。



◆大田小4学年（伊達市）

学年行事としてピザ焼きを体験されました。あいにくの小雨模様でしたが、子どもたちは元気いっぱい、雨をものともせず外で遊び、ピザも一生懸命に作りました。美味しそうに焼き上がったピザを頬張る様子に、こちらも思わず笑顔になりました。



花々日記

ざらんぼ

日本は狭いようで広く、地方によつて文化・習俗はさまざまです。その最たるもののひとつが言葉ではないでしょうか。これが同じ日本の言葉か、というほどの隔たりを地方のお年寄りの言葉から感じることがあります。しかしそれも、世代が若くなるにつれ、差異がなくなってきたりするようにです。特にライフスタイルの変化に伴い、使われなくなっていく言葉があります。「ざらんぼ」あるいは「じゃじゃんぼ」「じゃらんぼ」などもそのひとつかもしれません。

お葬式を表すこの言葉は、葬儀で使われる鍍金（によはち）というシンバルのような楽器の音からきたとも言われます。以前はお葬式というところ近所の人々が「手伝い」としてそのお宅に集まり、姻戚関係の遠近などから様々な役割を割り振られて葬列を作り、野辺送りをしました。今はすっかり見なくなりましたが、中心で鉦を叩く人を囲むように座った人々が長い数珠をたぐる「念仏」という行事もありました。ご遺体は病院から葬儀会場へ直行、精進落として家に帰ることなく、野辺送りでマイクロボスという形態に変わってきたのはここ10年ほどでしょうか。そんなお葬式スタイルの歴史はまだ浅いですが、ご近所の手を煩わして接待の準備をして自

宅で葬儀といった頃に戻ることばもうないのかもしれませんが。そしてお年寄りが少なくなるにつれて「ざらんぼ」という言葉も、その名の通り葬られていくのでしょうか。

わたくしごとですが今年、近親者を亡くしました。故人の強い希望により、本当に家族だけで行う、いわゆる「家族葬」で送り出しました。菩提寺もない、という故人がお墓に入ることを望まなかったため、僧侶による儀式も一切行いませんでした。告別式に臨んだのは配偶者、子孫だけ。決して大きくはありませんでしたが、それでもがらんとした会場と読経などが一切ない少し手持ち無沙汰な式でした。しかし、司会者（それでも司会者が必要でした）と葬儀社の人以外、赤の他人がいないうちでの故人との別れは格別でした。

長い間の習慣でも時代と共に変わっていくもの。昨今のインターネットの普及はそれに拍車をかけているかもしれません。言葉のように日本中が均一化されていく一方で、「家族葬」のように個人の考えが尊重され、実現されていく時代でもあります。どちらがよいとか悪いとかではなく、それが時の流れというものののだと思います。

〈お知らせ〉

花々日記は今回で最終回となります。今までご愛顧いただきありがとうございます。



日々の暮らしにハーブの香りを〜ハーブ教室・今後の予定

講師：瀧田 勉先生（ハーブとスローライフの研究者）

参加費：1,800円（材料費・税込）

8月26日（月）「ハーブピッツァ他」

9月30日（月）「ハーブソーセージ&サラダ」

10月28日（月）「ハーブピレレッジ（カクテルほか）」

もりもり里山夏まつり

要予約 **8/10(土)** 午前10時スタート!
午前9時より受付
※小雨決行

樋・器・箸 全て竹つくしの流しそうめん
弓矢に竹ぼっくり、竹とんぼ - 竹つくしの工作
おとなも子どもも、
みんなで食べよう・遊ぼう・楽しもう!

会場・受付

つきだて交流館もりもり

料金(税込)

大人 800円
小学生 500円
未就学児 200円

体験メニュー ※全て料金に含まず

流しそうめん 10:00~13:30

竹工作 12:30~14:00
(竹弓矢・竹ぼっくり・竹とんぼ)

森のペンダント 12:30~15:00

坂車グランプリ 14:00~15:00



夏はやっぱり
流しそうめん!



弓矢
竹ぼっくり
竹とんぼ
夏休みの工作も
バッチリ!

※未就学児は満4歳以上と
します。
※子供だけの参加はでき
ません。必ず保護者同伴
願います。
※団体(10名様以上)での
ご利用はできません。

日時 2019年9月28日(土)

花薫る郷音楽会 #16

1回目:午後2時開演(午後1時30分開場)
2回目:午後7時開演(午後6時30分開場)

会場 つきだて花工房

料金 大人2,000円・学生1,000円・小学生500円

出演

ヴァイオリン 石橋和彦
ヴァイオリン 白石夏子
ヴィオラ 出口貴子
チェロ 竹林良
チェンバロ 五十嵐裕子

プログラムより

となりのトトロ 久石譲 作曲
白鳥の湖 チャイコフスキー 作曲
愛の喜び クライスラー 作曲
G線上のアリア バッハ 作曲
他

音楽は「音で楽しむ」もの
クラシックも歌謡曲もそれは変わりません
クラシックはお行儀よく聴くもの?
そんなことはありません
ときに一緒に口ずさみ ときには一緒に演奏も
音で楽しむひとときを一緒に!

主催 花薫る郷音楽仲間たち

お客様の声

・いつ来ても敷地内のお花がきれいでホッと気持ちちが和みます。あーやれやれと部屋からの眺めを楽しみます。 <千葉県・女性>
・山々の景色がきれいで天気も良く、鳥のさえずり...最高のシチュエーションですね。 <福島・女性>
・普段、東京の観光地のような所に住んでいるので、静かで時間が止まったような所でのんびり過ごせて良かった。(どんぐりの家) <ご利用> <東京・男性>

読者プレゼント!

つきだての新米

3名様に



ご応募はキーワード・氏名・郵便番号・住所・電話番号・木もれ日通信70号で印象に残った記事とご感想をお書きの上、ご応募下さい。×切は10月25日到着分まで有効です。宛先はこちら。
【ハガキ】〒960-0903
福島県伊達市月館町下手渡字寺窪7 つきだて花工房
木もれ日通信読者プレゼント係

編集後記

【Eメール】flower@t-hanakobo.jp
タイトルに「木もれ日通信70号読者プレゼント係」とお書き下さい。
なお、当選者の発表は賞品の発送に代えさせていただきます。また、いただいた個人情報につきましては、花工房が責任を持って管理・保管し、プレゼント及び当館のご案内をお送りするほか、サービス向上のために使用させていただきます。
今回のキーワードは「ヤマユリ」
たくさんのご応募、
お待ちしております!



休館日 8月27日、9月10日、10月15日
(全て火曜日)

8月1日(木) 8月1日(木)
9月29日(日) 9月29日(日)
10月28日(月) 10月28日(月)

月の明かりで疲れた心を癒したい。
いますぐカレンダーにチェック!!